

政務活動費活動報告（視察）

- (1) 出席者（会派名・個人名）
公明党彦根市議団（上杉正敏・中野正剛）
- (2) 実施日： 令和4年4月21日（木） 11:00～12:30

【1. 調査の目的】

- (1) 本市における現状
今年、彦根市スポーツ・文化交流センターが完成し、まちなか交流棟に絵本や漫画等が置かれるが、彦根市として漫画の整備は始めて。
- (2) 本市における課題
まちなか交流棟に漫画を整備するとすると、どのような漫画を揃えればいいのか、どのような配置にすればいいのか等が今後の検討課題になると思われる。

【2. 調査地選定理由】

- (1) 調査項目
 - ・利用の状況
 - ・漫画の配置・種類
 - ・漫画を通しての市民との交流
- (2) 選定地1：北九州漫画ミュージアム

【3. 調査結果】

- (1) 内 容

北九州の歴史をたどると、官営八幡製鉄所の創業、門司港の国際貿易港としての繁栄があり、多様な文化が交流した。そして、経済的な発展を遂げた北九州に各新聞社が西部本部を設置したことで、いろいろな地方から漫画家が集まり紙面で腕を磨くことによって著名な漫画家が数多く誕生した。この大切な財産を生きた形で次代に伝えて、漫画の特性や魅力を発信するために北九州漫画ミュージアムは開館した。

館内ではまず、北九州出身の漫画家、松本零士の生い立ちや業績を紹介していた。そして、次に漫画ができるまでの過程の紹介もあり、戦後から今までの漫画を並べて戦後の漫画の歴史を学べるようにもしていた。

その他にも地元新進作家の紹介や漫画体験のワークショップも定期的に行っているとの事だった。

漫画の閲覧ゾーンでは約7万冊の蔵書をゆったりと読む空間が設けられていた。

市民との交流としては北九州漫画大賞を設け、4コマ漫画の募集を通して市民の参加を図っていたし、視力アップに関する知識を伝える漫画や北九州の財政漫画なども作成して、漫画を使って市民にわかりやすく情報発信をする工夫もされていた。

(2) 考 察

北九州漫画ミュージアムは単に地元出身の漫画家が多いことを理由に開館されたものかと思っていたが、北九州が経済発展を遂げていた頃の新聞社の紙面作成の歴史が背景にあることを知った。

館内の入場者は以外にも大人が多く、年間パスポートを購入している方が多いとのこと、子どもだけでなくあらゆる層の方が利用しているとの事だった。

また、漫画の書棚は、150 cmの高さから下は子ども向けの漫画、それ以上は大人が読むような漫画と区別して子どもの成長に合わせた内容の冊子が読めるように冊子が配置されていた。その他にも、スポーツや釣りをテーマにした漫画や地元北九州が描かれている漫画がコーナーとして置かれていた。

そして、市の発信する内容が漫画にして掲示されており、訪れた方への市の情報発信の場にもなっていた。

今回、彦根市のまちなか交流棟に配置される漫画の冊数はこの漫画ミュージアム程多くないので、まずは滋賀県が描かれた漫画や体育館が隣接していることもあり、スポーツに関する漫画を選んで置けるようにするのもいいのではないか。

そして、将来はあらゆる層の方が漫画を通じて交流を図り、彦根市からも多くの漫画作家が出るような環境が整備できるようになると良いと思う。